

『セヴェラルネス+ — 事物と都市・建築・人間』 中谷礼仁

いくつか性
↓ 事物の形態的な限界性
ある事物が持ついくつかの読取可能性 → これが転用の契機・蝶番になる。

§1 クリティカルパス — 桂の案内人

グレゴリー・ベイトソンの数列の例
2, 4, 6, 8, 10, 12
↓ 一般化して類推する。
「次は14...?」
「27とした」
意味づけ直される。
2, 4, 6, 8, 10, 12, 27, 2, 4, 6, 8, 10, 12, 27,
↓ 「次は2?」
「次に来る事実は、いつもわれわれと一段と複雑なレベルへ押し上げる可能性を孕んでいるのである。」 (34)

桂離宮
「瓜畑のかき小屋」 智仁親王 (1620年=3)
① ↓ + 中書院とその附属施設 智忠親王
② ↓ + 楽器の間・新御殿とその附属施設 智忠親王 (1622年=建)

「いずれにも共通するのは、桂が、内側に矛盾し対立する要因をかがえこみ、それが幾重もの意味を発信している事実にある。」 磯崎新 (37)
→ 夕下、丹下、堀口、磯崎ら... 同じ道行き!
87年 827年 835年 858年
「案内人がいたという」

あるクリティカルなパス(小径)からすれば、それらは一つの調和のとれた全体に見えた(?)
→ 後水尾上皇の御幸(1663年) & 家仁の茶会(1767年) → 舟の上から
「まじめ」
・事物に新たな与件が加えられると、それまでの過去やイメージが別様に再構成される。
・同じ対象であっても、見方によって異なるイメージや意味・体験が生じることもある。

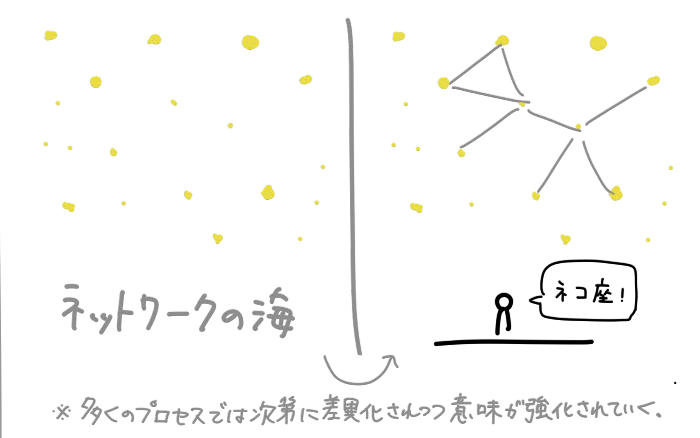
§2 ペリカン島単文記

「事物」= 「物理的実体」+ 「人の認識・イメージ」
かたち 意味
↓ 表層の写し
言葉で考えるとわかりやすい
さようなら → さようなら
|| かつらはかわらない
↓ 意味が変化する
さようなら → バイバイ
シニフィエ signifié

「表層の写しをな媒介にした、絶え間ない逸脱と変異。事物とはその新旧にガガわりなく、日夜そのようにして変化への絶妙なる「傷」を刻みつけられている。それは事物の世界の持つつきることのない豊饒さ(ランダムなサイズでもある)を保證しているに違いない。」 (19)

ちいさいあうち → 移築
旧朝鮮総督府庁舎 → 撤去
オリジナルの意味の「頑丈さ」故に...

「新しい事物が、ある特別の差異をもってネットワークの海から立ち上がるプロセスをいま見ることは、奇跡に近いことである。」 (75)
→ 意味が与えられるまで、何がその対象となる集合なのかかわらない。



アルカトラス島の例

ペリカン島
リチャード・オークス 100人近い大学生
元々、アメリカの刑務所だったが、使わなくなった。
自分達を「アメリカインディアン」として占領。
宣言書を書きつ、この島と自分達を定義づけた。
関係づけたい。→ 事物として形成される。

§3 建築職人ウィトルウィウス 弱い技術

ウィトルウィウス『建築書』 (1468)
ローマ人 → ギリシャ・ローマの古典建築の聖典
→ ギリシャ建築の定則をまとめた。
シムメトリアなど。
+ 実践的な記述も多い。
+ 職人や施主の役割も評価
「具体的で豊饒な技術知識」
ローマ的
ギリシャ... 「変わらぬ」ことによる永遠
ローマ... 「変わる」ことによる永遠

アトスチロシス 1931年アテネ憲章における文化財保存の基本方針
オリジナルな材の尊重
+ 新規追加はどのようにものどきか。明記する。
カサリヤ「時がくる建築」より (199)
マドリッド宣言 (1904)... 修復
アテネ憲章 (1931)... 時間と文化財保存
ヴェニス憲章 (1964)... 何れも部分の尊重
世界遺産条約 (1972)... オセンシテ

メタボリズムの失敗

アクアポリス (1975) 只菊竹清訓の海上着陸構想。沖繩国際海洋博覧会。2000年壊件。
中銀カプセルタワー 只黒川紀章 (1972)

① 近代的計画家の役割と無時間的な建築像 (102)
→ 全体的な企図と時間の変転には委ねなかった。

② 物理的・技術的な時代遅れ
→ 予め変化できる設計した部分以外、全く変えることが出来なかった。
+ 変えるためにも専用部材が必要
→ 変る部分と変らぬ部分という分割はよくなかった (109)

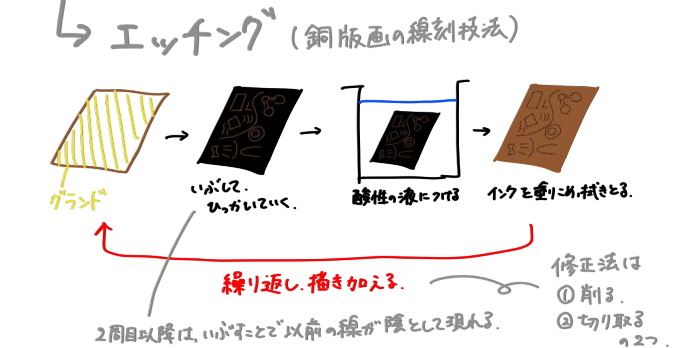
「強い技術」 ← アトスチロシス
「これは関連技術の用法を一義的に定めた厳格な(=強い)技術的共同体である。」 (105)
「各技術を強く固定された関連構造においてのみうまく作動しえる」 (105)
「弱い技術」 ← ローマのレンガは手にして誰かにつく。
場あたりの改修、小規模で部分的
「弱い技術はそれ自体では機能を定めず、新しいコンテキストで他技術とのその時々契約関係において用法を一時的に定める」 (106)

§4 ピラネージ、都市の人間

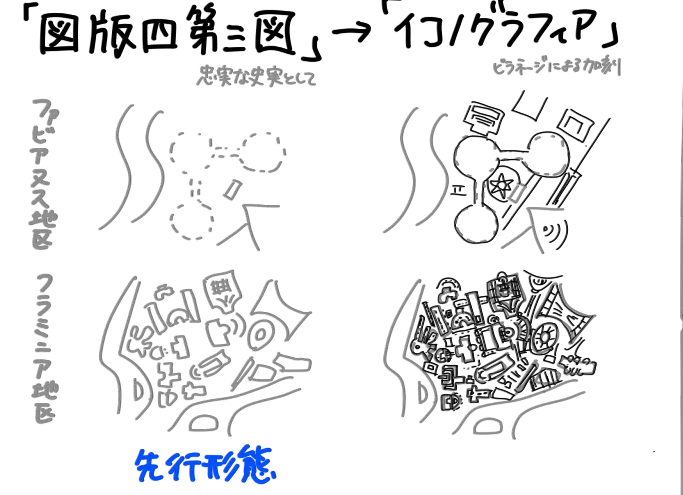
ローマの都市模型 → 人を高揚させる
 「それはまた現実においても、いかに優れた都市計画家が構成的ヴィスタをその都市風景一絵一の総体のほうが優れていることを、この模型が証明しているからだ」

イコグラフィア ピラネージ
 → 古代ローマの復原地図
 考古学的成果 + 想像的復原

マジック・メモ
 痕跡、堆積... 無意識の表象
 「記憶」は自立せず、痕跡により、事後的に再構成される。



「その痕跡の意味内容が風化して、その不完全な痕跡のみによって、まさに夢のごとく観念連合による新しい意味が観賞者たるピラネージによって付加された。」



「都市が都市であるためには、その都市を体験的に鑑賞し、突き動かされる人間の手足をばきを経なければならぬ。その意味で、都市は私たちに先行する決して消えることのない痕跡である。」

→ 先行形態の中から発見的に見出されるセヴェラルな道筋のどれかが選ばれ、加えらる。

§5 自尊心の強い少年

「ある事物の転用可能性は、その形態からセヴェラルに生じうるが、形態はそのあり方の可能性からひとつのみを自ら選択することは決してない。これを必然的なプロセス、ひとつの様相へ現実化するのには、その形態にさらなる根拠を与え、作業を遂行する<都市の人間>にこそある。」

「<都市の建築>は形態のみならず都市の人間も含めたプロセスに見出されるべきなのだ。」

更新と転用

更新 — 一定の決まったシステムに基づく
 ↳ 必する事物の時間的過程を抑制

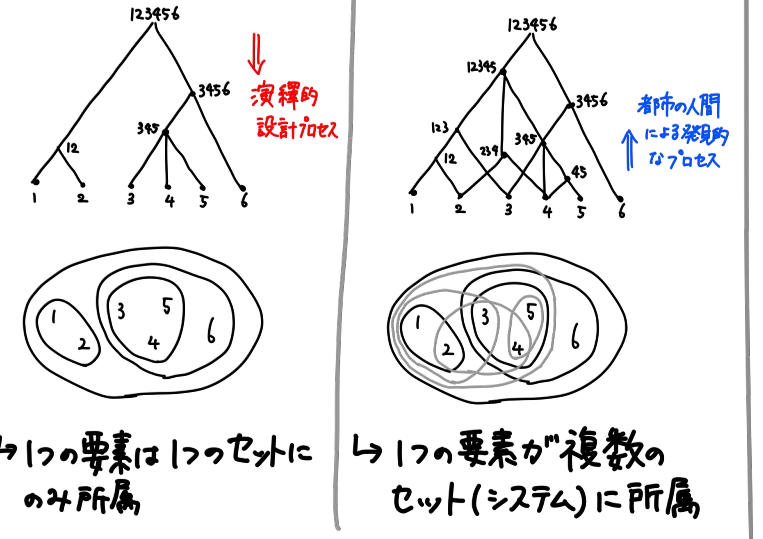
転用 — 偶然的に生じるセヴェラルな可能性の必然化の過程

アレグザンダーのツリーとセミラチス



セット... 有限の要素から、ひとまとまりの意味ある組み合わせ(システム)群が縁起
 ↳ 「断続的に縁起し、消滅していくもの」

ツリー (人工都市) セミラチス (自然都市)



セミラチスは複数のツリーの重ね合わせ
 自尊心の強い少年 → スケートボーダー

都市空間を「遊び場」として読み替える
 「都市形態との偶発的な契約関係」
 ※ただし、その度毎に生成される「遊び」のシステム(セット)自体は1つのツリーである。
 ↳ それが時間的にズレ重なることでセミラチスに。

サイバネティクス
 ↳ フィードバックを繰り返すことで、システム全体が自己言及的に安定する。

「偶発的な各人の行動が実はフィードバック的修正として介在し、サイバネティクスとしての安定に都市を作り上げる」... のか?

「しかしそんな現実はない」
 ↳ アレグザンダーはこれを「無自覚なプロセス」と呼んだ。
 ↳ 小玉のように自覚的な設計プロセスとして再現できるかというのが、アレグザンダーの探求

§6 ダイコク/シバのアレグザンダー 出来事とその徴

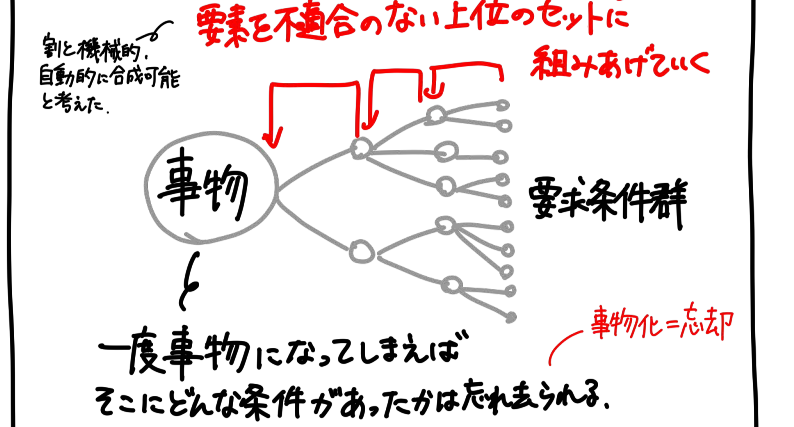
『都市の建築』 アルト・ロッシ
 ↳ 地霊ケニス・ウチ
 場所... 強固に残存する固有性
 ↳ 人はその一部を占地する (古典世界)

↳ 「一体どこから artifact の固有性が始まるのか」
 ↳ 現代的な(再開発的な)建築観からはわかりにくい。ロッシの世界観では、地霊の宿る一つの全体として都市があり、建築は、都市という全体のうち「部分」であった。

「出来事とその出来事を示すしるしについて」
 徴

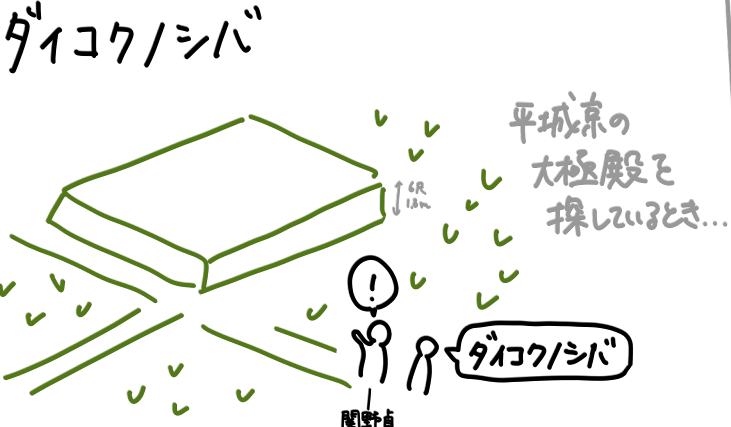
<無自覚なプロセス> と 無意識下の「詩人」

「開の合成に関するノート」 アレグザンダー
 ↳ 無自覚なプロセスの自然な組織を意識的に真似する
 ↳ 不適合を少しずつ取り除いていく



「ノート」の方法論は計画の要求に潜む無意識を意識的に取り扱うのみならず、逆にその意識的な条件を無意識化、封印=事物化するプロセスを明らかにしたものだ。」

「パターン・ランゲージ」 アレグザンダー (1977年)
 ↳ 不明瞭なランゲージ
 ↳ その結びつけるには、無意識下の「詩人」が必要



→ とい逸話が残っているが、そもそも「ダイコクデン」という地名が公式に使われる。

なぜ「ダイコクノシバ」のエピソードを使った?

「この場に事物が Monument たりうる条件が隠されているように思えてならないのである。ここでいう Monument とは出来事を内包する、つまりは因果律だけでは説明の出来ない固有性とともに過去の事物のことをさしている。」(197) → 偶然の必然化

実は... 出来事とその徴 太后の墓から
5km 離れた元明天皇の陵墓が「ダイコクノシバ」と呼ばれていた!



→ 無意識の中の「詩人」が遠くの地名と場のイメージを結びつけていた。

必然性の中にあつたある様相が! 無意識の「詩人」的感性により事物に加えられる、それが事物を固有のものにしていく。

アリエー(寓意)... 部分と全体とは別の文脈で読み替え、意味を加えられるもの。

§7 セヴェラルネス 事物連鎖のためのかたち

電車・舟などを住宅に「コンバージョン」転用

→ 人間の根源的な能力のひとつ

ヴィジュアル・エゴ (事物的光景)

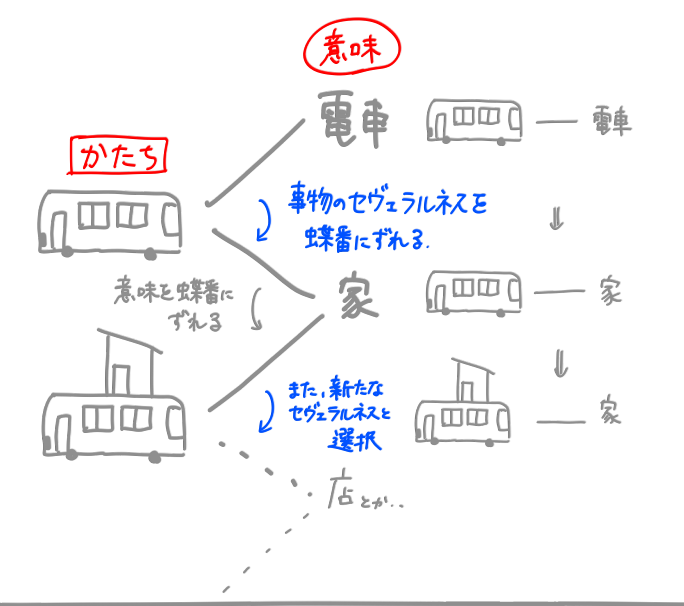
「事物」= 「物理的実体」+ 「人の認識・イメージ」
「物」自体 「私」の混濁した意識
 → その人にとっての「現われ」としての事物。

ブリコラージュと資材性

→ ありあわせの道具材料を用いて自分の手でものをつくること。(→ それを作る「器用人」)
ブリコロール
 R. Lévi-Strauss 『野性の思考』より
 「なぜなら「もちあわせ」の内容構成は、目下の計画にも、またいかなる特定の計画にも無関係で、偶然の結果できたものだからである。(中略) 器用人の用いる資材集合は、単に資材性(潜在的有用性)のみによって定義される。」

「結論として、以下のことがいえる。事物の転用が成立するためには、そのかたちの持つ限界性が、逆に可変のための基準とならなければならない。その基準があるからこそ、転用者は、新しい要望に対してそのかたちが耐えられるかどうかを厳密に推測することが可能となる。つまり意味や機能の移動を保證するのは、その事物における限界性能リスト(セヴェラルネス)なのである。」(255)

事物連鎖 かたちと意味がズレて連鎖していく。



§8 先行形態論

都市スケールの大地形(先行形態)が知らず知らず現在まで影響している。というプラタモリ的な話。

→ 後の開発や利用において「問題にならない」が故に残り続けた。

広島の場合

原爆後の復興都市計画において、不可解な斜めの大型道路。

↓ と戦前にはなかった。
 「実はこの斜線の位置は、近世期における市街地と新開地との境界に重なっているのである。」(281)

→ 周辺部のスプロール街路は取り除かれ、中心部の街路が残った。
明・皇以降
近世・町家

→ 担当者が直感的に引いた線と重なる。